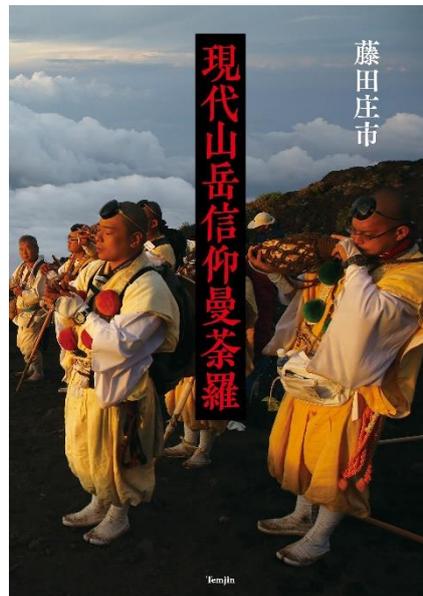


各 位

2020年12月16日
株式会社天夢人

「祈り」の現場を追い続けるフォトジャーナリストが、
自ら体感した「修験道」のリアルな姿を活写するフィールドワークの成果！
「山」と「祈り」の現在形。『現代山岳信仰曼荼羅』刊行!!

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:勝峰富雄)は、2020年12月18日に、『現代山岳信仰曼荼羅』(藤田庄市・著)を刊行いたします。



「祈り」の現場を追い続けるフォトジャーナリスト藤田庄市氏が、この20年余り取材し、自ら体感した「修験道」のリアルな姿を活写するフィールドワークの成果。著者渾身のフォト・ルポルタージュ。「山」と「祈り」の現在形。「修験道」の息吹を伝える豊富なカラー写真と、実体験して得た真摯な言葉により、「修験道」の深奥に迫ります。

〈おもな掲載山城〉

高尾山／富士山／御嶽山／国東半島六郷満山／羽黒山／大峯山



深夜に燃やされる娑婆羅樹。
稲藁が揺れながら、激しく音
をたてて燃え上がる

「即身成仏行」の名で七日間の断食行を成就した。その際、行の指揮を執った宮城泰平師（現・聖護院門主）から、「修験道はこの身（山身）のままで成仏すると聞くが、これには即身成仏、即身即仏、即身即身の語つがある」のだと教えられた。わけでも即身即身の語は、この身と仏との間に時間差がないように感じられ、妙に印象に残った。羽黒修験の秋峰に入峰できたおかげで、即身即仏の世界がこの身に迫ってきた。



羽黒修験道の開祖、熊津太子（原見大菩薩、梶子舟子）

が流されたときの感情はただの安っぽいセンチメンタルで、康正さんの厳しさを本当はわかっていてもいなかった。回顧する値もないようなお前の三十二年間だったのだ。そうした思いが、少しずつ心に沁みて重なっていた。「行はればするほど、悟りから遠くなりまして、四十年近く前、北畠山の千日回峰行者、小林栄茂師（故人）が行と悟りについての真問に、決然と答えてくれたのをお前はなにを聞いていたのか、決して「……」から出直して」と無念の声を繰り出したのを忘れたのか、お前はただの傲慢になっただけなのだ。

その眞悟さん（六十四歳、現・吉野山金峯山寺長徳）について記そう。「冒頭に「ある行者」と記した先達とは彼のことである。

眞悟を一九八一年（昭和五十六年）に初めて取材したときのこと、「道をあける」先達の声に急いで山道の縁に身を寄せる間もなく、すこい連さで一人の山伏が駆けつけていった。気配にとられた。それが初めて見た眞悟さんの姿だった。



「天の二十八宿」の最上峰は娑婆羅樹



急峻な「天の二十八宿」、馬頭の高へ到るには鎖を降りるほか道はない

たと同時に足をとられて水没してしまった。流される、さっきの金剛杖が腰をきった。なんと立ち上がったものの、カメラは万事休す、だった。

実をいえば、前日は二度も脱落していた。初めは、両部分け（大岩を金剛岩と娑婆羅岩に分ける地点のキレット）の崖を鎖で降りかけたとき、なんの弾みも、鎖が大きく揺れなくれをえぐった。上をもちにかぶりながら脱落。眼鏡をこぼされたことも気づかなかった。が、が、すり傷もなかった。間もなく今度は、平坦な山道であるにもかかわらず、右足を踏みはずし、斜面に放り出された。身体が回転しながら落ちてゆく。しかし、なんとたつた。意識は「止まるだろう」となめている。だが、加速度がつき回転が速くなった。声は出す。「うわー」（言葉はない）と心臓が冷える。と、岩か樹木を記憶は定かでないが、なにかにぶつかり止まった。今度もかすり傷ひとつなかった。

ずぶぬれ寒で岸に上がった。水波と前日の二度の転落と、条件次第では崖傷や死ですらおかしくないのに、その怖さが実感として迫ってきたのは、なんとという悪かさ、下山後しばらくしてからのことである。金剛杖

〈目次〉

プロローグ 東京・高尾山修験の今

第一章 知られざる富士山登拝 田子の浦から村山古道へ

聖護院富士山峯入り修行／山岳修行の再創造 高尾山修験霊峰富士登歩練行／火口にて先祖と見まみえる 丸山教富士登山／ある富士講先達の生きた道

第二章 御嶽山信仰霊山群を巡る

根本道場、木曾御嶽山を往く／秩父御嶽山は開祖の故郷／狛犬ならぬ「狛狼」の両神山／浄土を見せる上州武尊山 木曾御嶽山の翌年に開關／八海山のこれから スピリチュアルの時代に／普寛霊神祭 火渡り、刃渡り、さまざまな護摩

第三章 国東半島六郷満山の峰入り

第四章 羽黒修験秋峰 仏として再誕する

第五章 大峯山脈修験の息吹

吉野山から山中深く 奥駈修行／雨中にシャクナゲと伝説の窟を求めて／前鬼裏行場の神秘性／真冬的那智四十八滝回峰行／大日如来と結ばれる 聖護院深仙灌頂

藤田庄市 ふじた・しょういち

1947年(昭和22年)東京生まれ。大正大学文学部哲学科宗教学専攻卒。フォトジャーナリスト、日本写真家協会会員、日本山岳修験学会評議員、(公益財団法人)国際宗教研究所・宗教情報リサーチセンター研究員(1998年～2018年)。山岳信仰、宗教修行、伝統仏教、神道、民俗宗教、新宗教、カルト問題、政治と宗教など、四十年間にわたって宗教取材に従事。

著書として、『異界を駆ける 山岳修行と霊能の世界』(学習研究社)、『熊野、修験の道を往く「大峯奥駈」完全踏破』(淡交社)、『本朝霊域紀行』(新潮社)、『行とは何か』(新潮社)、『修行と信仰 変わるからだ変わるころ』(岩波書店)、写真集『伊勢神宮』(新潮社)、写真集『祈りの杜 明治神宮』(平凡社)、『拝み屋さん 霊能祈禱師の世界』(弘文堂)、『民俗仏教の旅』(青弓社)、『四国八十八カ所 弘法大師と歩く心の旅』(学習研究社)、『霊能の秘儀 人はいかに救われるのか』(扶桑社)、『神さま仏さま 現代宗教の考現学』(アスペクト)、『オウム真理教事件』(朝日新聞社)、『宗教事件の内側 精神を呪縛される人びと』(岩波書店)、『カルト宗教事件の深層 「スピリチュアル・アビュース」の論理』(春秋社)など。共著として、井上順孝ほか編『新宗教事典』(弘文堂。カラー口絵を担当)、井上順孝編『情報時代のオウム真理教』(春秋社)、井上順孝編『〈オウム真理教〉を検証する そのウチとソトの境界線』(春秋社)、塚田穂高編『徹底検証 日本の右傾化』(筑摩書房)などがある。

【書誌情報】

書名:現代山岳信仰曼荼羅

仕様:A5版ソフトカバー・オールカラー

定価:本体 1800円+税

発売日:2020年12月18日

全国書店、オンライン書店のAmazonなどで発売中。

<https://amzn.to/32NDHVn>

【株式会社天夢人】 <https://temjin-g.com/>

2007年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道(奇数月21日発売)』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・

カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:松本大輔、証券コード:東証1部9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当:勝峰

Tel: 03-6413-8755 / E-mail: info@temjin-g.co.jp

URL: <https://temjin-g.com/>